

# 「生きる力」をはぐくむ 家庭学習の手引き

## 心と頭と体の生活リズムを整えましょう

### 《早寝・早起き・朝ごはん》

朝食は大切なエネルギー源です。必ずとらせてから登校させましょう。

起床と就寝の時間を守らせましょう。

テレビ、ゲーム、携帯電話（メール）、パソコンなどの使用についてルールを決めましょう。



## 学習環境や学習への意欲を整えさせましょう

親子で、一日のどの時間帯に家庭学習ができるか、話し合しましょう。ランドセルや学習用具を決められたところに置くようにさせましょう。学校で配布されたものを、ランドセルから出すようにさせましょう。宿題の有無を確認させましょう。

机やテーブルの上を整理させましょう。

削った鉛筆、ノートや辞典などの学習用具をそろえさせましょう。

時間と場所を決めて、集中できる場をつくりましょう。

「ながら学習」はやめさせましょう。

（テレビを見ながら、音楽を聞きながら、おやつを食べながら 等）

よい姿勢で学習に取り組ませましょう。

一つ一つ終わらせましょう。（考えている時は、見守りましょう）

家庭学習が終わったら、次の日の準備をさせましょう。

（筆箱の中身を整える、時間割を合わせる、学習用具の確認 等）

## 日常生活の中で、「見えない学力」を身につけさせましょう

読書は、「見えない学力」をはぐくみます。

国語辞典・漢和辞典・図鑑・地図・地球儀などを身近に置いて、いつでも調べさせる習慣をつけさせましょう。

新聞を読んだり、ニュース番組を見る雰囲気大切にしましょう。

（身近なことから社会的なことまで、いろいろな面から見つめて、知り、考えていく楽しさを伝えていきましょう）

自然とのふれあいを大切に、発見する目、感じる心を育てましょう。家の手伝いをさせましょう。

あいさつはいつも元気に自分から

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われています。小学校の学習は、将来、社会人・職業人として自立するための基礎となる、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視し習得していくものです。とくに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」「計算すること」は、欠かすことのできない「生きるための力」です。この「生きるための力」である基礎学力の向上は、家庭学習の定着にも大きく影響されます。それだけに、発達段階・学年、一人一人の子どもに応じた家庭でのサポートが必要なのです。子どもを認め励まし、アドバイスしていく中で、一人一人の力は伸びます。そして、子ども自身にとって、とても大切な自分への自信と意欲が育っていきます。保護者の方には、宿題を見届けてあげることから結構です。自分の意志で学習に向かえるよう家庭学習の習慣化をご支援下さい。

# 家庭学習の習慣をしっかりと身につけさせましょう！

## 子どもの学習に関心を持ちましょう

家庭学習の大切さについて、子どもと話し合しましょう。

子どもの毎日の学習内容を、だいたいつかんでおきましょう。

子どもがやり遂げられるように、声をかけ励ましましょう。また、やり遂げた（取り組んだ）ことを見届け、ほめてやりましょう。

（「...できていないよ」ではなく、「...がわかるようになったね」とプラス面を見つけて、かかわっていききたいものです）

子どもが話しかけてきたら、相談にのったり、適切にアドバイスをしてあげましょう。

時間のある時は、一緒に学習してあげましょう。

学習時間として個人差はありますが、次のような時間を目安にしましょう。

低学年... 20分 基本を身につける学習に取り組み、家でも学習するのだという習慣を身につけるようにしましょう。

中学年... 40分 基本を身につける学習だけでなく、自主的な学習も少しずつできるようにしましょう。

高学年... 60分 自主的に取り組む学習と基本を身につける学習に取り組むようにしましょう。

## 自立のための「8つの基本」

あいさつ（返事）ができる。

自分の考えを伝えることができる。

時間を守ることができる。

正しいことばづかいができる。

掃除（身の回りの整理整頓）ができる。

指示されたこと（言われたこと）を理解し、行動できる。

話を静かに聞くことができる。

自学自習（自分のことは自分で）ができる。

江戸しぐさの「しぐさ」は「思草」と書きます。思いがそのまま行いに表れることを意味します。

ふだんから、自分さえよければいいと思っていれば、必ずしぐさ（目つき、表情、口のきき方、身のこなしなど）に出てしまいます。

子どもは敏感です。大人のそうした一挙手一投足（細かなひとつひとつの動作）をじっと見ていて、確実になぞります。

子どもが育つ江戸しぐさ（ロング新書）越川禮子 著 から



## 担任（学校）と連絡を密にしましょう

一人ひとり、子どもは違います。さまざまな面で個人差があります。

学習の内容や子どもへの伝え方などわかりにくいことがあれば、積極的に担任へ相談しましょう。よりよい方法について、一緒に考えましょう。

家庭や地域でがんばっていることなども担任へ伝えましょう。

家庭と担任（学校）が連絡を密にすることで、子どものよさをさらに伸ばしていきましょう。